

## (参考資料)

- PB導入の我が国の経緯(+過去のPB改善が及ぼしたネガティブな影響)
- PB導入による最悪な失敗事例(アルゼンチン)
- PB目標でない、債務対GDP比目標の成功事例(米クリントン政権)

# 民主党・菅総理の「遺産」としての「PB目標」

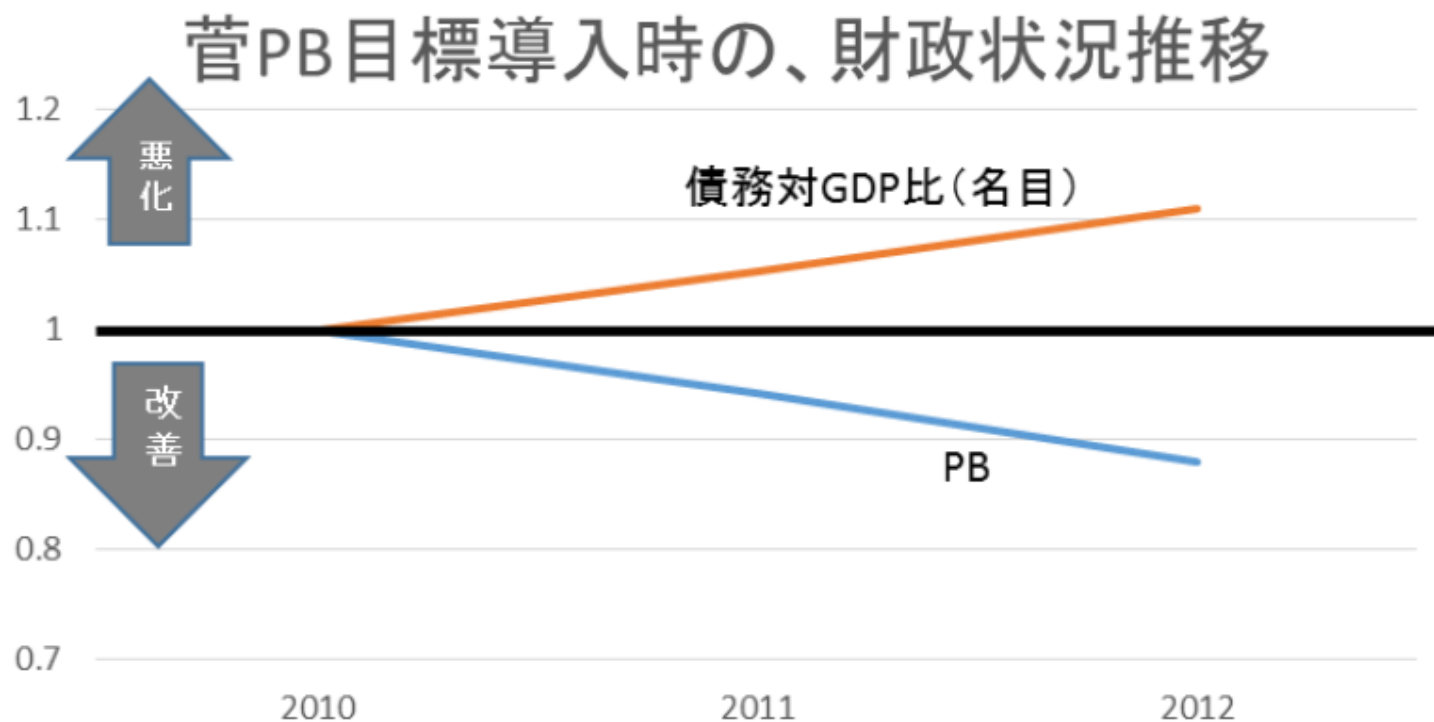
- ・1997年 橋本政権で「財政構造改革法」成立（目標＝05年まで赤字国債を削減）  
⇒ ただし、翌98年、小渕内閣が、景気回復を優先するため凍結
- ・2002年 小泉内閣による、PB目標導入（閣議決定「10年でPBをゼロにする」）  
⇒ 結果、2007年まで、**PB赤字を五分之一にまで大幅改善！**（その際、主に削られたのが、公共投資。約3割削減）  
しかし、経済成長ができず、**債務対GDP比（名目）は逆に6.6%悪化**  
⇒ 2008年リーマンショックが起こり、景気が大幅悪化。 については麻生内閣にて、PB目標は**「事実上」撤回**。

## ・2010年 菅内閣による、PB目標の再導入（閣議決定）

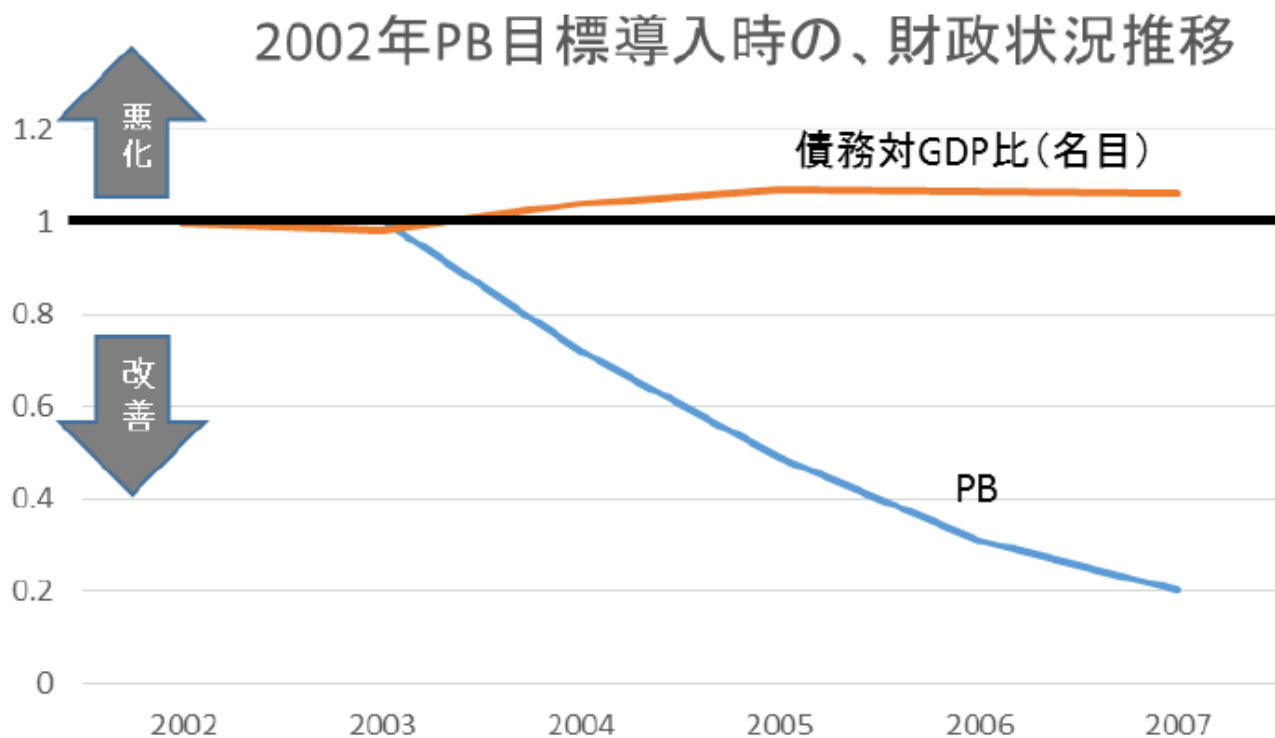
- ⇒ 不合理なマニフェストに対する「財源論がない」という批判をかわすために、  
菅元財務大臣が、総理就任と同時に、PB目標（2020年までに黒字化）を閣議決定。  
※その後、民主党はPBを12%「改善」させたが、債務対GDP比（名目）は13%「悪化」

～この菅PB目標が、未だに残っている状態～

# 菅・野田内閣がPB改善を目指した結果、 債務対GDP比(名目)は悪化



小泉導入PB目標で、PBを過激に改善しても  
債務対GDP比(名目)は改善せず(むしろ悪化)



# PB目標のために財政破綻したアルゼンチン

- ・歴史上、明確にPB目標を導入したのは(筆者が知る限り)アルゼンチン一国  
(なお、G20諸国の財政規律は、基本的に全て「債務対GDP比」。  
日本も債務対GDP比が目標だが、中間目標としてPBを導入している。  
しかし、日本以外の国で、PBを何らかの目標に据えているG20国は、現時点では**皆無**)。

- ・しかし、アルゼンチンは、このPB目標を真面目に追求したため、  
景気が悪化し、税収が大幅に低下、最終的に**破綻**(デフォルト)した。

(経緯)

- 1980年代 ハイパーインフレ状態に陥る。
- 1990年代初頭 IMF・米国に救済を依頼。  
この時、救済措置と引き替えに、PB目標が導入された「PBを2003年度でゼロにする」
- 2001年 PBゼロを達成！
- しかし、過激な緊縮財政のため、税収が大きく低下。対外債務が増加し、その結果....
- 2001年12月には、対外債務が履行できなくなった(=デフォルト・財政破綻)

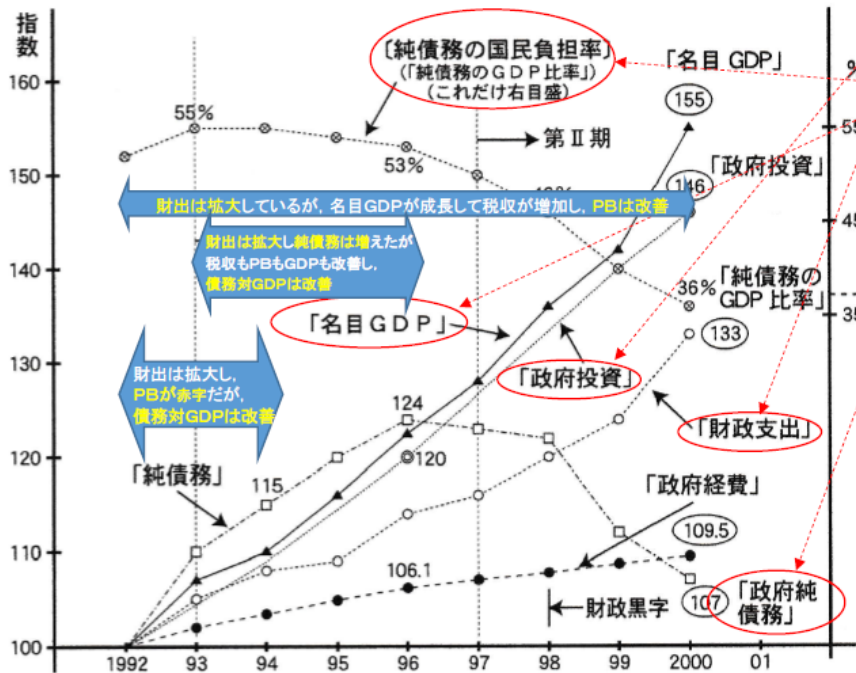
(参考文献「細野健二・塩野健一郎(2005)アルゼンチン—経済危機とマクロ経済安定化への道のり、国債協力銀行」  
「細野昭雄(2002)「アルゼンチンの経済改革と通貨危機、神戸大学経済経営研究所No.62」)

長期的に言うなら.... **日本も、「明日は我が身」か？**

# 一方！ .....PBでなく「債務対GDP比」改善目標を掲げた米クリントン政権は、成長と財政再建を同時に果たした！

図表 クリントン前大統領の財政政策

(第Ⅰ期 1993～96年、第Ⅱ期 1997～2000年)



(注) 「名目GDP」「純債務額」「財政支出」「社会的共通資本」は、いずれも1992年を100として指数化したもの。  
(出所) 米国家務省予算書より作成。

- ◆ クリントン政権は8年間で、**財政を33%拡大**  
(経費は9.5%、投資は46%拡大)
- ◆ その結果、「GDP」「債務対GDP比」は年々改善。  
(55%拡大) (55%⇒36%へと、約三分の一も改善)
- ◆ ただし、「債務」は当初は拡大。  
その後改善していったが、それでも当初よりも悪化。
- ◆ つまりクリントン政権は、「債務の削減」を目標とせず、  
債務対GDP比を目標とすることで、  
成長と財政再建の双方を手に入れることに成功！

👉 本事例は **日本も債務でなく「債務対GDP比」**  
**を目標にすることが、財政と成長の双方**  
**にとって得策である可能性を示唆！**